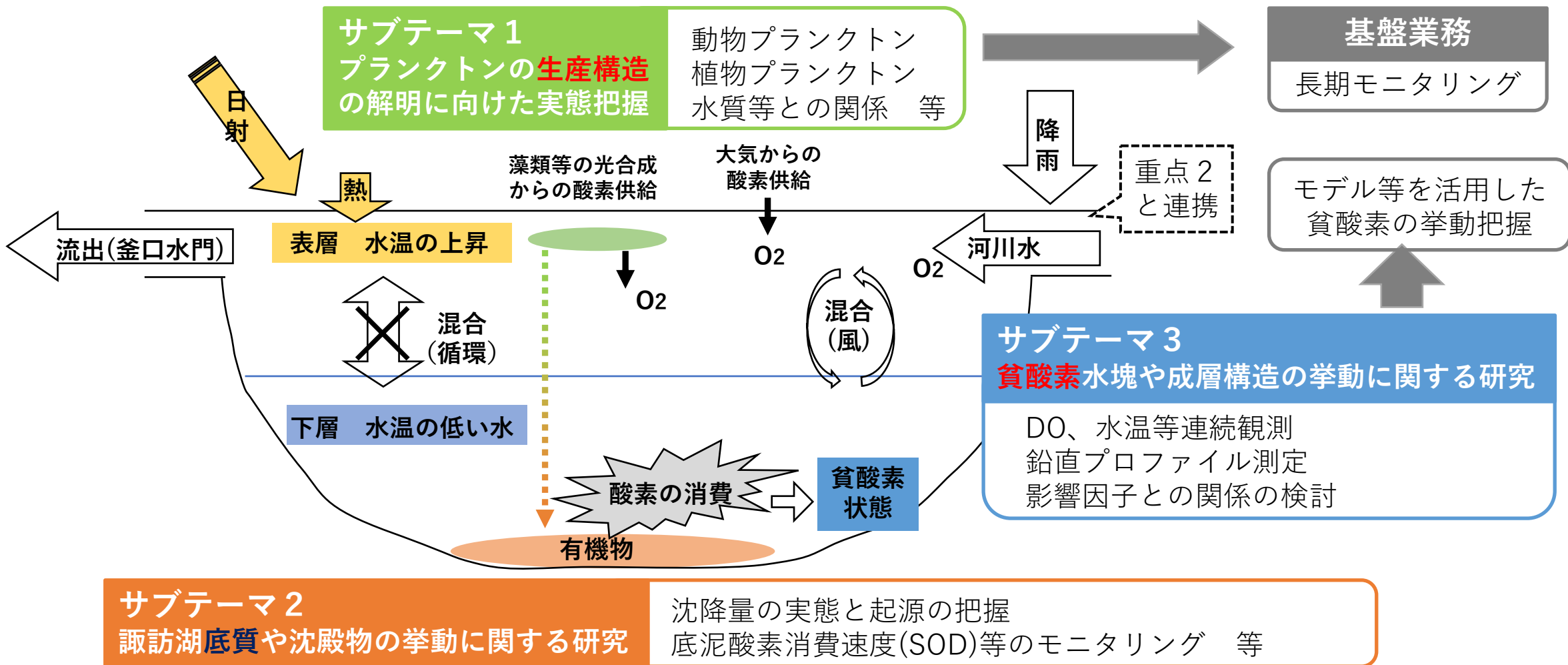


重点研究 1 気候変動に伴う諏訪湖の物質循環の構造変化に関する研究

- ・気候変動の影響で水温の上昇に伴う湖沼の成層構造の変化や溶存酸素量の低下、それに伴う生物相への影響などが危惧
- ・ヒシ大量繁茂や貧酸素水塊の課題に対応するため、物質循環の季節変動と、貧酸素水塊発生や底泥の挙動との関連把握が必要

⇒ 【目的】 底質・水質・生物の相互関係や、水柱の溶存酸素濃度等の変動機構を含めた湖内の生産・物質循環構造を解明



重点研究2 流域視点からの水環境保全・改善に向けた物質動態の解明

- ・諏訪湖、野尻湖の水質は長期的に改善傾向
- ・継続的な水質改善に向けた汚濁負荷量削減が課題
- ・マイクロプラスチックや農薬の流出実態が不明

⇒ 【目的】 湖沼周辺の水域における栄養塩、有機物、マイクロプラスチック、ネオニコチノイド系農薬の動態を解明

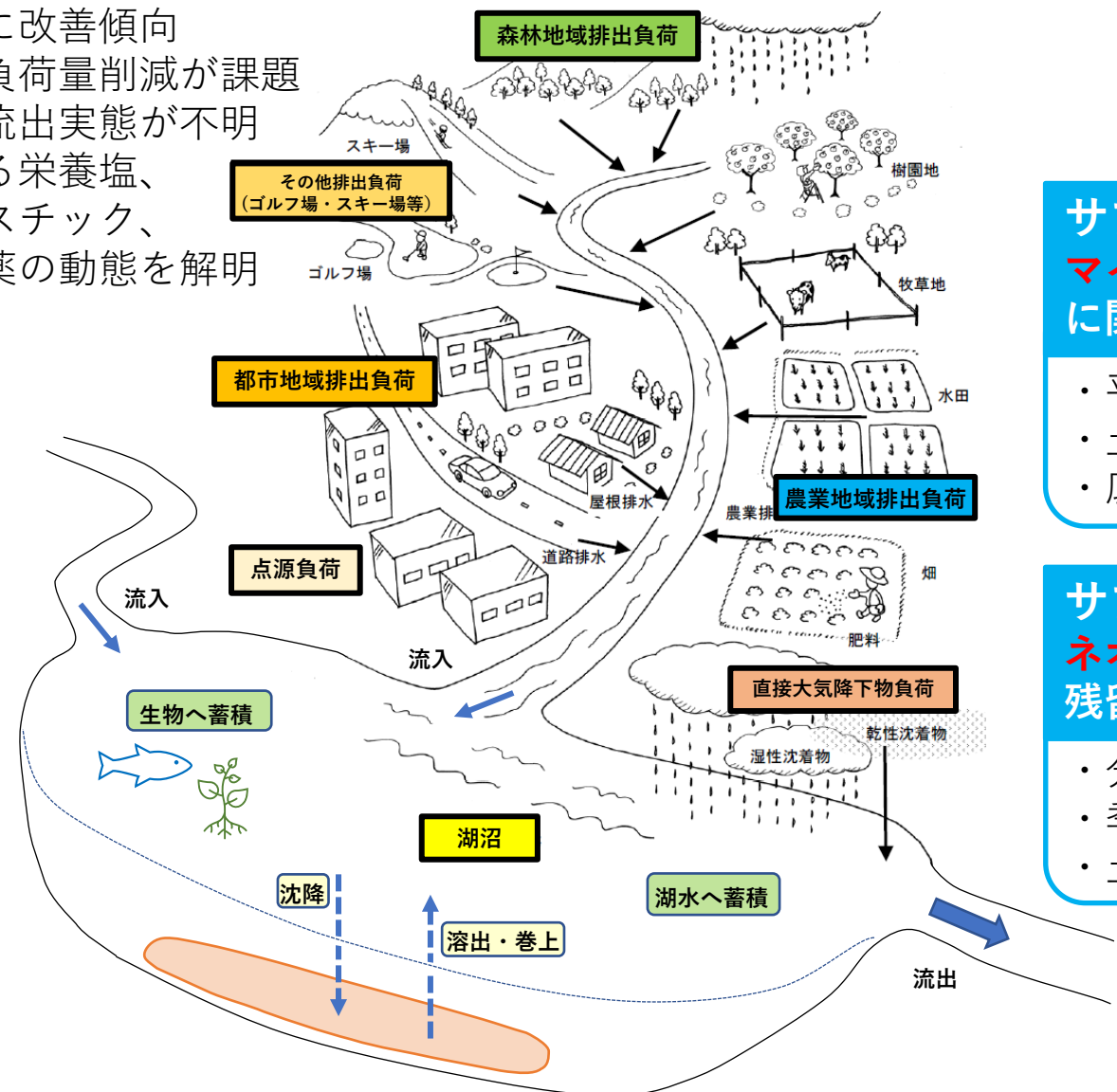
人工物

サブテーマ3
マイクロプラスチック実態把握
 に関する研究

- ・ 平常時の流出特性
- ・ 土地利用状況との関連
- ・ 底泥試料の調査手法開発

サブテーマ4
ネオニコチノイド系農薬の環境
残留実態の解明に関する調査研究

- ・ 分析体制の確立
- ・ 季節変化等の把握
- ・ 土地利用状況との関連



栄養塩他

サブテーマ1
諏訪湖流入河川負荷量等調査

- ・ 主要な流入河川（上川、宮川）の水質濃度、負荷量の把握
- ・ 土地利用状況との関連
- ・ 長期的な経時変化の把握

サブテーマ2
野尻湖流入河川負荷量等調査

- ・ 主要な流入河川の水質濃度、負荷量の把握

出典：非特定汚染源対策の推進に係るガイドライン（第二版）（2014）（一部改変）

重点研究 3 湖沼沿岸帯の生物多様性保全を目指した適正な生物管理に関する研究

- ・ 県内の主要な湖沼の沿岸帯では、水草の大量繁茂や外来生物等の影響による生物多様性の減少などの課題がある。
- ・ 生態系保全、生物多様性増進のための対策は、分布状況、生物量等の科学的根拠をもとに検討される必要がある。

⇒ 【目的】 生物の分布情報やその生態、適切な水生動植物管理に必要な知見を集積し、生態系保全・生物多様性増進に活用

